

# 笑顔大好き

発行者：常井洋治  
〒319-0205 笠間市押辺1745  
TEL.0299-45-6818  
FAX.0299-45-0818



▲矢野下地区内の水田に用水を引く  
涸沼川の堰の改修が完了して、宍戸  
土地改良区矢野下地区維持管理委  
員長 大和田廣一さん(左端)ら役  
員の皆さんと現場を確認した。用水  
の確保と維持が主食である米の安  
定供給の上で極めて重要であるこ  
を現場で話し合った。(令和6年6  
月11日)



## TOPIC① 県政報告会を開催します

### 「食料安全保障」について、一緒に勉強しませんか？

私が提案した「茨城県食と農を守るための条例」(令和6年3月施行)を議員提案条例として制定しました。  
日本に差し迫りつつある食料危機に対処するためには、どうしたらいいか。自らの命を守るための自分事として考えた  
と思います。

今回は、私の県政報告会の一環として下記の講演を予定しますので、ご自由にご参加ください。

**日時** 2024年8月4日(日) 14:00~15:30 (受付 13:00~)

**場所** 友部公民館 3階 大ホール 笠間市中央3丁目3-6 TEL 0296-77-7533

特別講演「食料安全保障を実現するために」 — 食料危機にどう対処するのか —  
のぶひろ  
東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 鈴木 宣弘 先生

1958年 三重県生まれ

1982年 東京大学農学部農業経済学科卒業

同年 農林水産省入省

2004年 九州大学大学院農学研究院 教授

2005年 九州大学アジア総合政策センター教授(兼任)

2006年9月より東京大学教授。

#### プロフィール

主な著書 世界で最初に飢えるのは日本 食の安全保障をどう守るか(講談社+α新書、2022年)  
食の戦争 米国の罠に落ちる日本(文春新書、2013年)  
農業消滅 農政の失敗がまねく国家存亡の危機(平凡社新書979、2021年) 他多数

## TOPIC②

## “皆さんの声に ところいが動く”

## ところい洋治が皆さんとともに進める、地元の道路・河川・農地の整備

私、常井洋治が、地元の皆さんから様々な要望を受け、水戸土木事務所、県央農林事務所土地改良部門の幹部との勉強会を開催しました。毎年開催し、今年で26回目となります。着実に整備を進めています。主だった箇所の進捗状況をお知らせします。(※は常井洋治コメント)

## 水戸土木事務所との勉強会 (R6.5.20)



▲水戸土木事務所の大森所長はじめ幹部に対し、地元事業の円滑な推進を求めた。

## [道路関係]

## ①国道355号穴戸橋の架替(南小泉～橋爪地内 L=390m W=13.5/6.5m)の整備

【令和6年度予算：85百万円】

- ・令和5年度は、物件補償調査、用地買収を実施した。用地進捗率は約8割。
- ・現在、繰越予算にて、橋梁下部工事を実施中。
- ・令和6年度は、引き続き、物件補償調査を実施し、用地買収を進めるとともに、道路改良工事を実施する。

## ②杉崎友部線(小原地内(友部駅方面～廣慶寺手前) L=350m W=9.75/6.0m)の整備

【令和6年度予算：80百万円】

- ・令和5年度は、物件補償調査、用地買収を実施した。用地進捗率は約8割。
- ・令和6年度は、引き続き、物件補償調査、用地買収を進めるとともに、道路改良舗装工事を実施する。

## ③稲田友部線(上加賀地内 L=1,300m W=11.5/6.0m)の整備

【令和6年度予算：171百万円】

- ・令和5年度は、道路詳細設計、道路法面詳細設計を実施した。
- ・令和6年度は、用地測量、物件補償調査を実施し、用地買収に着手する。
- ・なお、笠間スマートIC及び稲田友部線に接続するアクセス道路は、R8年度供用予定。

## ④石岡城里線バイパス(長兎路地内 L=2,700m W=27.0/13.0m)の整備

【令和6年度予算：450百万円】

- ・令和5年度は、物件補償調査、用地買収を実施した。用地進捗率は約7割。
- ・また、下安居地区の妙行院前の市道交差点について、交差点設計を実施。

※市道をバイパス完成後も通行可能にした。県と警察での信号機設置の協議も実施するよう求めた。

- ・現在、繰越予算にて、道路改良工事を実施中。
- ・令和6年度は、引き続き、用地買収を進めるとともに、排水樋管工事、道路改良工事を実施する。

## ⑤稲田友部線(本戸地内 L=2,315m W=11.0/6.0m)の整備

【令和6年度予算：170百万円】

- ・令和5年度は、道路改良工事を実施した。

- ・令和6年度は、埋蔵文化財調査後、道路改良工事を継続実施し、早期整備を図る。

## ⑥富谷稲田線(稲田地内 L=2,500m W=10/6m)の整備

【令和6年度予算：30百万円】

- ・令和6年度は、物件補償調査、用地買収を進める。

## ⑦平友部停車場線(友部駅前 L=320m)の電線地中化

【令和6年度予算：30百万円】

- ・令和6年度は、引き続き、電線共同溝整備工事を実施する。

## ⑧橋梁の耐震補強

【令和6年度予算：12百万円】

- ・JR水戸線を跨ぐ国道355号の諏訪跨線橋(笠間市大田町)について、橋梁の耐震補強工事を実施する。(JR委託施工)

## ⑨道路の舗装修繕

【令和6年度予算：60百万円】

- ・茨城岩間線(安居地内、押辺地内)
- ・日立笠間線(福田地内)(発注済、6月中に完了)

## ⑩道路照明

- ・国道355号外において、老朽化した道路照明灯をLED照明に更新する。

※茨城岩間線(上押辺行人地内)の歩道左右切替え地点に新設する。

## ⑪交通安全施設の更新

- ・国道355号外において、交通安全施設(老朽化した標識、消えた白線等)を更新する。

## ⑫笠間つくば線(下市毛地内(ガソリンスタンド付近) L=180m W=2.5m)の歩道整備

- ・未買収地の買収に向け調整を進める。

## ⑬真端水戸線の整備(スターツ笠間ゴルフ倶楽部付近)

- ・令和5年度は、物件調査並びに用地買収を実施した。
- ・現在、繰越予算にて、地質調査業務を実施中。
- ・道路流末排水に係る測量設計等を進める。

## ⑭大洗友部線(仁古田地区)の整備

- ・茨城町境橋梁部(一の橋)の整備は、未買収地(共有地)が取付部分にかかるため、橋梁を含め工事は用地解決後となる。

- ・笠間市側、茨城町側の両方に共有地があり、解決に時間を要する。引き続き、笠間市及び茨城町と連携しながら、共有地の買収に向け調整を進める。

※私は、この膠着状態を打開するために、道路計画の変更など新たな取組を行うよう要請した。

## ⑮吾国山道祖神峠のトンネル化

- ・地域振興に向けた地元における今後の取組み等を勘察しながら、どのようにすれば事業が可能か、関係者と協議していく。

※以下について、私から水戸土木事務所へ要請した。

- ・国道50号の4車線化推進について、国への働きかけの実施
- ・道の駅かさ付近の渋滞緩和策

## [公園関係]

## ⑯笠間芸術の森公園

【令和6年度予算：48百万円】

- ・令和6年度は、あそびの杜の公園遊具の一部改修工事、前年度同様に未供用部の事業地管理工事等を実施する。

**[河川関係]**

- ①7 濁沼川の改修事業の促進 (中流工区 L=9,300m)  
【令和6年度予算:40百万円 令和5年度補正予算:250百万円】  
・JR常磐線からJR水戸線までの河川改修を進めている。  
・令和5年度は、亀の甲橋上流区間において河道掘削工事、河川改修工事を実施した。  
・令和6年度は、引き続き上記区間において河道掘削工事を実施する。  
・下加賀田橋上流区間は、設計が完了したので、住民説明会を実施する。
- ①8 濁沼川の改修事業の促進 (笠間工区 L=2,400m)  
【令和6年度予算:0百万円 令和5年度補正予算:200百万円】  
・JR水戸線から国道50号までの河川改修を進めている。  
・令和5年度は、昭和橋から片庭川合流点までの一部区間において護岸及び排水樋管工事を実施した。  
・令和6年度は、引き続き上記区間において護岸及び排水樋管工事を実施する。
- ①9 通常砂防事業費 (砂防指定地 南指原川 (本戸地区))  
【令和6年度予算:20百万円】  
・南指原川の本戸地区の砂防堰堤1基の補修設計及び地質調査を実施する。
- ②0 国補急傾斜地崩壊対策事業  
【令和6年度予算:12百万円 令和5年度補正予算:5百万円】  
・笠間市内における土砂災害警戒区域・特別警戒区域の調査を実施する。

- ②1 県単急傾斜地崩壊対策事業費 (仁古田東部地区)  
【令和6年度予算:40百万円】  
・令和5年度は、急傾斜地崩壊危険区域を指定。また、詳細設計を完了した。  
・令和6年度は、工事に着手予定。
- ②2 県単河川防災費・県単河川補修費  
【令和6年度予算 (管内全域):777百万円】  
1) 濁沼川 (大淵地区) 護岸工  
2) 間黒川 (箱田地区) 用地測量  
3) 片庭川 (石井地区) 設計  
4) 二反田川 (南吉原地区) 護岸工  
5) 枝折川 (湯崎地区) 護岸工  
6) 濁沼川 (安居地区) 竹木の伐採  
※私から、安居～土師・住吉地区の竹木の再伐採を要請した。  
7) 稲田沢川 (稲田地区) 浚渫  
8) 除草等維持管理 (濁沼川、濁沼前川、桜川、随光寺川 等)



**県央農林事務所土地改良部門との勉強会 (R6.5.20)**

○矢野下堰改修 (濁沼川) 【令和6年5月完了】  
・事業主体: 宍戸土地改良区 ・事業名: (国補) 農業水路等長寿命化・防災減災事業 (単位: 千円)

地区名	工期	全体		事業費負担			
		事業量	事業費	国 (50%)	県 (14%)	笠間市 (13%)	土地改良区 (23%)
矢野下	R3~R5	堰 (SR起伏堰) 1基 幅22.8m×高1.3m	242,000	121,000	33,880	31,460	55,660

○笠間市内の県営土地改良事業の進捗状況 (令和6年6月現在) 上段 ( ) はR5補正予算等で外数 (単位: 千円)

地区名	工期	全体		令和5年度までの進捗	令和6年度		令和7年度以降	
		事業量	事業費		事業量	事業費	事業量	事業費
(かんがい排水) 押辺・安居	R3~R9	用水 99.7ha	1,100,200	6%	用水 39.8ha 用水機場1箇所	(178,000) 40,000	用水 59.9ha	816,200
(経営体育成) 笠間大淵	R2~R7	区画整理 31.9ha 暗渠排水 27.5ha	1,018,900	89%	区画整理 1.1ha	(9,562) 100,000	暗渠排水 27.5ha	5,400
(経営体育成) 石井来栖稲田	R4~R12	区画整理 74.1ha 暗渠排水 69.7ha	2,080,300	4%	換地原案作成 測量設計	20,000	区画整理 74.1ha 暗渠排水 69.7ha	1,970,300
(経営体育成) 友部中央	H30~R7	用水 35.3ha 排水路 2.0km 農道 2.0km	1,180,000	70%	排水路 0.2km 農道 0.9km	(500) 85,000	用水 0.7ha 排水路 0.7km 農道付帯工	266,800
(経営体育成) 南友部	R2~R7	区画整理 14.2ha 暗渠排水 14.2ha	408,200	70%	ポンプゲート1式 暗渠排水 1.8ha	(15,900) 48,000	暗渠排水 10.7ha	60,200

**令和6年県議会第2回定例会を終えて**

令和6年第2回定例会は、6月4日から6月20日までの17日間開かれ、令和6年度補正予算など19件の議案が可決、同意、承認されました。

**令和6年度6月県一般会計補正予算を可決**

- ◎補正予算 **12億23百万円**
- ◎補正後予算 **1兆2,524億13百万円**

**主な事業**

- (1) 防災・減災対策 **488百万円**  
・再生可能エネルギー導入レジリエンス強化関連事業 404百万円

- ・建築物等震災対策事業 13百万円
- ・医療施設プリンクラー等緊急整備助成事業 71百万円
- (2) 事業構造の転換等の促進 **735百万円**  
・運送業2024年問題対策関連事業 50百万円
- ・いばらき業務改善奨励金事業 42百万円
- ・重点市場インバウンド誘客促進事業 250百万円
- ・花絶景観光支援事業 100百万円
- ・霞ヶ浦北浦漁業構造改革緊急対策事業 31百万円
- ・共同物流拠点施設整備事業 262百万円

### 営業戦略農林水産委員会の質疑要約 (R6.6.12)

- 笠間栗ファクトリー(株)への出資の真の目的を問う
- 「笠間の栗」のブランドを守り高めたい

八島功男委員(公明党)から、農林水産部に対し【笠間栗ファクトリー(株)】に県から3,500万円出資した目的と意義について質問があった。

〈八島委員の質問要約〉

令和5年3月期の決算書を見ると、同社は過度な設備を投資したことでキャッシュフローが不安定であり、加えて、原材料の栗の仕入れに苦戦している。製造品の全量販売にも至っていない。今回の出資の趣旨は経営内容、財務内容の安定のためではなかったのかなと、私は見ている。

今後の赤字を考えると、債務超過が想定されるかもしれないということで、資本金の注入が必要であったと指摘する人もいるようだと言っている。

以下は、その後の、常井洋治と農林水産部のやりとり。

**常井委員** 県の出資については、笠間市外の県産栗の売値を上げるための構造的改革をするために笠間栗ファクトリーに出資してその納入を受け入れるという説明であったはずだが。

**加治産地振興課長** きちんと栗を集められないと過剰投資になってしまう。会社の財務が危ういということならば、県内の栗を集めることも選択肢として入れていかねばならないと考えた。

**常井委員** 私たちには当初から会社の財務の(窮状の)話など一切なかった。私たちへの説明では、県内産の栗の売値を底上げしたいということが主眼だったはずだ。今日の資料では「笠間の栗のブランド力強化と付加価値の向上を推進する」と記述している。笠間の栗としか言っていない。我々に対する説明を変えてしまっている。

笠間市産の栗は、みんなが努力して売値も上がり、「笠間の栗」としてブランドを築いてきたのに、笠間市外の栗も受け入れ、混ぜて製品を作り、「笠間の栗」として売るのは消費者としても生産者としても、おかしいと思っている。

あの狭い笠間栗ファクトリーの(工場の)中で、笠間市産の栗とその他の県内産の栗とを分けて製品を作るとか言っているが、私には詭弁としか受け取れない。

せっかく苦勞して作ったブランドが崩れてしまうのが残念でならない。おかしいと思わないか。

**加治産地振興課長** 工場に(笠間市産とそれ以外の栗を)ちゃんと切り分けて加工できると確認している。

**常井委員** 道の駅かさまで、笠間市産の栗のモンブランペーストと笠間市外の県内産栗の加工品について、別々に札を立て、販売することができるのか。

**加治産地振興課長** 今のペーストの原料原産地を見ても笠間市産と書いてある。笠間市産以外の栗の加工品は「茨城県産」と表示することで消費者が混同することがないように販売できると考えている。

**常井委員** 現実的に無理なことを無理な方法でやろうとしたことは農林水産部の制度設計のミスだ。「笠間栗ファクトリー」と(看板に)表示した工場で作ったものに、笠

間市外の産地の「茨城県産の栗もあります」とか紛らわしくないか。消費者に戸惑いが出たらブランドは総崩れだ。今度の出資は県から持ち掛けたと聞かす。

**加治産地振興課長** 県から持ち掛けた。

**常井委員** 頼まれもしないことをして、押し付けて、紛らわしくして、ブランドも崩してどうするのだ。笠間の栗のモンブランは笠間市産の栗でできていると消費者は思っている。他の産地の栗が入っているとすれば紛らわしくなる。

**加治産地振興課長** 我々としては、きちんと笠間市産の栗をまず集めるところに力を入れてやっていく。併せて原料が確保できないようであれば茨城県産のペーストとして、消費者が混同しないような形で進めていきたい。



「笠間市産の栗」のブランドを大切に訴える。

### 〈本件に対する常井洋治の基本的な考え方〉

笠間栗ファクトリー(株)への県出資3,500万円については、本年第1回定例会で議決済であるが、今回の質疑を通して、次のように考えている。

- ① 県出資団体数を減らそうとしている中で、今回の出資で出資団体を増やすのはおかしい。県財政再建のために、平成21年の県議会県出資団体等調査特別委員会では、当時の55団体を平成29年度までに30団体程度へ減らす提言をし、現在、33団体まで縮減した。今回の出資団体増加は流れに逆行している。
- ② いばらき自民党政調会や議会への説明では、同社の財務の窮状へのてこ入れのような説明はこれまで全く無かった。今回の委員会の資料でも同様。説明が場当たりで一貫性がない。
- ③ 出資の理由について、②のような状況のため、出資の議決の判断を阻害するものになってしまったと思われる。県の意図の有無に拘わらず、県議会や議員を愚弄していると考えざるを得ない。
- ④ 生産者と消費者の信頼を得て、笠間市産の栗のブランドを守り向上させることが、一番大事だ。せっかくみんなで作ってきたブランドが崩れれば、栗の値段も崩れてしまう。
- ⑤ 県内産栗のための加工施設は、別途民間主導で作るよう政策誘導をすべきだ。
- ⑥ 同社及び笠間市の考えが全く示されていないのは、極めて違和感がある。
- ⑦ 同社は、本来笠間市産の栗のブランド化を目指して設立したはずだ。県外に流出している笠間市産の栗について、業者や農家に対し、同社への納入を働きかけることに注力すべきだ。

### 笠間栗ファクトリー(株) (代表取締役社長 山口伸樹氏) の資本金と出資額

- 県出資後の資本金 110,000千円
- 出資額
  - 茨城県 35,000千円 (32%)、笠間市 35,000千円 (32%)
  - JR東日本 30,000千円 (27%)、JA常陸 10,000千円 (9%)

HPアドレス ● <http://business2.plala.or.jp/tokoiy> をぜひご覧ください。

フェイスブックもどうぞご覧ください。皆様のご意見をお待ちしています。

ホームページ フェイスブック

